

「新潟産業史」

地域に学ぶ

地域を学ぶ

— 史政活動レポート —

原酒造を訪れて

地域理解セミナーⅢ
「地域経済政策分野」で
は、柏崎で生業を営む方
々の生の声を聴きなが
ら、地域経済学について
深く学んでいる。私たち
が訪問した原酒造は、1
814年に産声をあげ
た。その後、柏崎大火や
中越沖地震を乗り越え、
老舗の日本酒蔵として
手造りの技によって育ま
れた酒を今日まで醸し続
けている。

原酒造創立から40年の
後、ペリーが艦隊を率い
て浦賀沖に来航した。西
洋文明との接触を通じ
て、日本文化の様態も強
い政治性・軍事性を帯び
るようになる。当時、徳
川幕府からの権力移譲
が、官位を「禁裡様」(天
皇)に返上するためにも、
「革命」でなく「維新」
の表現が選ばれた。日本
は著しい歴史的要革期に
直面していた。

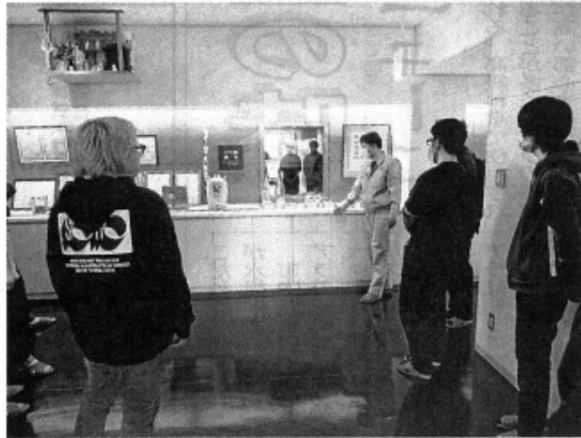
この時代、富岡製糸場
をはじめ、官営模範工場
が日本の産業革命に貢献

したことは良く知られて
いるが、1876年に札幌
の開拓使麦酒醸造所
(現在のサッポロビール)
が開業し、軽工業発展の
ため一躍その名を馳(は)
せるに至ったことを知る
人は、必ずしも多くはな
い。原酒造の創始者であ
る原幸太郎氏も、鍋作り
と修理を請け負う鋳物師
を生業としていたが、風
雲急を告げる時代の要革
期に身を投じ、家督を妹
に譲り心機一転の起業に
踏み切る。開拓使麦酒醸
造所に先駆けて、原酒造
が柏崎の地に根付くに至
る瞬間であった。

参加した平井創大さん
(2年)からは、「創業の
背景や精神を理解するこ
とが大切だということ、
入り口に飾られている巨

大な杉玉からは、良いお
酒ができるようにとの願
いと伝統を継承してい
く気概を感じました」との
コメントが寄せられた。
この度の突然の訪問に
もかわわらず、私たちを

温かく迎えてくださった
原酒造の方々に心から謝
意を表したい。
新潟産業大学経済学部
准教授・内橋賢悟
(同大学地域連携セン
ター)



お待ちかね えんま市

4年ぶり 露店ぎっしり並ぶ



4年ぶりに露店が隙間なく並んだ通り。開始直後から大勢が訪れにきわった
14日午前11時ごろ

柏崎の伝統行事「えんま市」が14日、東・西本町通りぎっしりと屋台が並ぶなかで始まった。市露店管理委員会（事務局・市商工業協賛）によると、今年も「えんま市」は、村上大祭（村上市）、蒲原大祭（新発田市）と並び、新潟・天高町（たかまの）の一つで、20年以上の伝統がある。昨年は、県内露店商に限り、約140店が出店した。今年は4年ぶりに全国から集まり、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。

昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

「えんま市」の露店めぐりには、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

「えんま市」の露店めぐりには、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

「えんま市」の露店めぐりには、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

「えんま市」の露店めぐりには、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

「えんま市」の露店めぐりには、おたけ屋敷や射的、コンヒーター、手相占いなど、おなじみの店が戻ってきた。昨年は制限された「通り」の食べ歩き・飲み歩きは解禁され、味わう緑豆の楽しさが増した。一方で、昨年からの新しい様子として取り入れた会場内「二方通行」や「フォジエ駐車の飲食スペース」は継続した。市商工業協賛の松田通斗（ちゅうと）さんは「いつもいい子にしているから、えんま市は怖くない」と笑顔。明原保博（たけひろ）さんは「年男の金子恵方ちゃんはお店がいていいわ、わくわくしちゃう」と、同・奈良沢莉央（りお）さんは「細あめを買ってみたい」と楽しさを語った。

元気いっぱい 消防団をPR

学生消防隊

新潟県新潟市東区、新潟県立新潟工業高等学校（新潟工大）の市消防団学生消防隊（隊長＝新潟工大4年・田中真由さん）が15日夜、えんま市を訪れた人たちに、消防団活動や火の用心を元気にPRした。

市消防団は毎年、えんま市での警戒と並行し、広報活動を実施。積載車展示・垂車体験、女性消防隊（大倉中利子隊長）による住宅用火災警報器などのPRを繰り返してきた。

学生消防隊は2020年4月に発足し、昨年からは参加している。学生18人は、景品を手に入れたら「団員募集

元気よく消防団をPRする学生消防隊員15日夜、市内西本町1



「団PR動画の視聴を呼び掛けた。」

「天気がなごっています。消防団に入ってくださいね」と、大人から子どもまで積極的に声掛けをした。田中隊長は「皆さんのほうから受け取りに来てくれたり、声を掛けてくれたりしてうれしかった。隊員をしっかりと引っ張って、消防・防災の広報などに務めたい」と気持ちを新たに話した。

女性隊の隊員も募集中という大倉隊長は「みんな無理のない範囲で活動しているので、気軽に参加してほしい」とし、市公式YouTubeチャンネルの消防

産大レクチャー ●●● ア・ラ・カルト

〈187〉

最近、チャットGPTなどの「生成系AI」に関する新聞記事やニュースが増え、注目を集めています。特に、大学教育におけるチャットGPT活用の是非を巡っては、慎重派と、積極派に大きく分かれています。皆さんは、どうお考えでしょうか？

私は、活用積極派です。利用を禁止するのではなく、むしろ、学生がチャットGPTを有効に活用するための訓練・環境作

て必要とされる社会人の能力になる、そう考えています。

理由は、第一に、言うまでもなく、チャットGPTの有する膨大な知識情報量とそのアクセスの利便性です。例えば、最

その内容を私が個別に各種資料で検証することで、1週間ほどで信頼性の高いリストを作ることができました。また、学生の側においても、例えば、日本の会社法だけでなく、海外の多様な会社

ます。

他方で、第二の理由として、皆さんご承知のよう、チャットGPTの利用には幾つかの留意点があります。例えば、チャットGPTが基礎としてしている情報自体が

されます。

それでは、大学の教育現場は、今後どうなるのでしょうか？ これまでのような「〇〇について調べ、その内容を整理して述べよ」といった、単純なレポート課題は、もう意味がなくなりまし

どう発見し解決策を提示するかという「思考方法」を伝授すること、そのような授業をどう提供することができるか、そこが問われる時代が来てしまったように思います。

ところで、この文章のかなりの部分は、チャットGPTが出力してくれた文面を基にしています。どの部分がチャットGPTで、どの部分が私のオリジナルな意見や文章か、お分かりになるでしょうか？

チャットGPTと大学教育

安達 明久

近、私は研究会発表用に、世界15カ国の会社法に関する基本法令の最新リストを作成しました。旧来であれば、数カ月の作業期間が必要ですが、チャットGPTに指示して暫定的な資料を提示させ、

法の特徴を、一瞬のうちには体系的に比較整理された形で俯瞰（ふかん）することが出来ます。日本のサッカー選手が海外に進出し視野を広げ、大きくレベルアップしたのと同じ現象が起きつつあり

限定されていること、情報が正しいとしてもAI自体の習熟レベルが不十分である可能性があること、さらには、著作権の侵害・個人情報保護などの未解決の問題も存在することが懸念

た。一般的な知識や理論の内容は、チャットGPTが瞬時に豊富に提供してくれます。知識の伝達は、チャットGPTに多くを委ね、教員は、提示された知識の「検証方法」、それら知識や理論が「どう現実と関わるのか」、さらには、知識に基づいて社会的課題を

（教授）

Ⅱ 毎月1回掲載Ⅱ

「新潟大学」 地域に学ぶ 地域を学ぶ

— 実践活動レポート —

留学生が 英語の指導

新潟産業大学は学外の教育機関と連携協力し、地域の教育研究推進に取り組んでいる。

先日、文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定校にされている柏崎高校で、「SSH課題研究英語発表会」が行われた。本事業は、生徒の英語学習意欲を高めることを目的としている。

ネシア)だ。過去に母国で英語の教員をしていた経験があり、生徒の英語活用能力向上のために参加させていた。ムハンマドさんは「学んだ言語を話せるようになるには、一人で練習するよりも他人とコミュニケーションを取ることが大切です。英語で課題を発表し、ディスカッションをすることは難しいですが、自分の英語力に自信を持つてほしい」と発表した生徒へエールを送った。

同校SSH部長の布施教諭は「日本人の話す英語とは発音、イントネーションが微妙に異なり、そのネイティブな英語のリスニングと緊張から、生徒たちは回答に苦

しんでいた。しかし最後まで何度も質問内容を聞き直し、粘り強く回答していた生徒もあり、その姿には感動させられた。この発表会の意義を強く実感できた」と振り返った。

内容は生徒が研究した物理、化学、生物の理系テーマを英語でポスターにまとめ、研究概要を英語で在校生と柏崎高校SSH運営指導委員、そして留学生等の来賓に対して発表し、質疑応答もすべて英語で行うというものだった。生徒、来賓は発表者に対する評価表を記入し、最後に講評でフィードバックをした。今回の来賓の一人が、本学の留学生ムハンマドアブドゥルカリムモントナロさん(4年・インド



留学生が自分の経験と知識を活かして、日本の高校生と英語を介して交流した経験は、今後の留学生活にもきっとプラスになるはずだ。(同大学地域連携センター)